



1年学年だより

発行日：令和3年12月1日（水）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

校長：遠藤 広樹 NO. 7

生徒会役員選挙が行われました！

11月16日（火）に新生徒会本部役員を選出する立会演説会が行われました。今年度は初の試みとして、google meet を用い、各教室においてオンラインで開催しました。候補者たちは「全校生徒が学校生活を楽しいと思える瞬間を増やしたい」「できなかった、残念。で終わらせない。今できることを」「より多くの生徒会員の意思を企画に反映する」など、思いを熱く語りました。同日に投票した結果、次期生徒会本部役員が以下の通り決定しました。

生徒会長 2年3組： ████████ さん

役員 2年1組： ████████ さん、2年1組： ████████ さん

2年2組： ████████ さん

1年2組： ████████ さん、1年3組： ████████ さん



現・新 生徒会本部役員の皆さん

今年度、生徒会本部は「 TPO で変えよう 我らの日常 」という生徒会目標を掲げて活動しています。生徒会活動が制限されている中、一人ひとりが生徒会目標をより意識できるようにポスターコンクールをおこなったり、3 学年のつながりを少しでも感じ、お昼の時間をより楽しくするための生徒会ビデオを放送したりしてきました。また、より満足のいく学校食堂のために、食堂の方と共同で食堂アンケートを実施しました。3 学期には中学全体が楽しく交流しながらマナー向上のために学べるイベントも企画中です。

12月から3月までの4カ月、現役員と新役員の10人がともに活動することで、生徒会活動の引継ぎとパワーアップ目指していきます。

本部役員は附属中生の代表として活動していきますが、附属中学校を作っていくのは全校生徒のみなさんです。南高校附属中学校は今年度開校10年を迎えました。その時その時の、たくさんの附属中生だった先輩たちが皆さんの生活する学校の土台を築き上げてくれました。これからはさらによりよい学校を目指し、全校生徒で明日の附属中学校をつくっていきましょう。一人ひとりの姿勢から学校は変化していきます。さまざまな生徒会活動（委員会活動やクラスの係活動や学校行事など）は附属中生一人ひとりの成長のチャンスです。創意工夫のある生徒会活動を通して、附属中生が心身ともにたくましく成長していくことを願っています。

貿易ゲームを通して考えた世界



11月20日(土)の土曜 EGG 体験では、K-DEC (かながわ開発教育センター)より講師の方をお招きして、本校初の試みである「貿易ゲーム」を行いました。これは、あらかじめ紙や道具を不平等に与えられた複数のグループ間で、できるだけ多くの富を得ることを競うという貿易のシミュレーションゲームです。紙は資源、道具は技術、グループは国を表し、豊かなグループはより豊かに、貧しいグループはより貧しくなるというような経済格差の広がりや、現実世界と比較しながら体験しました。その中で感じたこと、考えたことを振り返ってみました。

1組

私たちの班は、貿易ゲームで1位をとることが出来た。勝因は、私たちの班には道具はたくさんあったが、紙が1枚しかなかったの、紙がたくさんある班と交渉して協力できたこと、また、道具を貸す代わりに、シールをもらったり、売上金のうち100ドルをもらったりして、お互いにwin winな交渉をもちかけられたことだと思う。このゲームを通して協力関係を築いて貿易をすることが大切だとわかった。



1組

最初からものを作る資源(紙)がある人と、物を作る技術(道具)がある人、物を買うお金(クリップ)がある人、すべてがある人、すべてがない人に分かれていると知った。現実社会ではお金がある人や技術がある人(先進国)が、資源だけある人(途上国)を支配するのではなく、フェアトレードなどの形で協力すべきだと思った。

2組

現実の世界とこの貿易ゲームを比べてみると、すごくたくさんの共通点が見つかって、貧富の差について考えさせられた。例えば資源のある国は、技術のある国と比べると稼げなかったり、ブランドだけで商品が高く売れたりすることだ。また、最後に見た映像で「貧しいとは?」という問いで、「貧しい=お金がない」というわけではないことに気づき、貧しさ・豊かさの本質を考える良い機会になった。

2組

今回のゲームは一見楽しいゲームのように見えるが、意味が深いゲームだと分かった。まず「差」だ。ゲーム開始時点で技術の差があった。その後の結果にも、それがつながった。国ごとの貧富の差や、技術の違いなどは実際の世界と似ている。最初から資源が多かったチームはどんどんお金も増えていき、色々と独占して交渉をあまりしていなかった。これは現実世界でも大国の心理を表していると思った。世界の状況を表している「貿易ゲーム」は、気軽にできるゲームだが、大切なことを学ぶことができた。今回の学習を生かして、より考えを深めていきたいと思った。



3組

貿易ゲームの中で、自分が取引をする上で気づいたことがある。それは道具や資源を持っているチームが、交渉の場では常に優位に立っているということだ。例えば、コンパスがほしいときに、コンパスを持っているチームと交渉すると、破格の値段で取引をしようと言ってきた。これは現実の世界でも、先進国が途上国に対して高圧的に交渉をするようなものである。誰もが対等に交渉できるようにするのが、解決すべき課題だと考えた。

3組

簡単なゲームでも大変だったから、これがもっと複雑で、終わりもないことが世界全体で起こっているのは深刻な問題だと思った。みんなが自分の利益になるように動いていた。やっぱり現実世界もその傾向があると思う。客観的に見たり、全体を見られたりする人が増えれば、さまざまな問題の解決につながっていくと思う。厳しい状況でも「協力しよう」と一声かけたり、それに対応（賛成）したりして、みんなの行動のきっかけになれるよう、自分の考えや行動を見直していきたい。

4組

途上国と先進国の格差は、簡単には埋められないと思った。ビデオを見て、上位1%の人が世界の富の82%を独占していることは、自分の想像をはるかに超えていた。格差をなくすのは難しいことだが、国同士が互いの弱点を補い合いながら協力していけば、製品の生産を効率よくできて、一つの国で生産するより多くの利益を得ることが出来るのではないかと思う。フェアトレードをして、途上国の製品は高くても品質が良ければ買っていくことが大切だと思った。これは私たち自身がお店に行き行って取り組めることでもあるので実践していきたい。

4組

世界の国々の関係が、そのままこの貿易ゲームに出ていると思った。信用（ブランド）がないと、同じものを売っても買い取ってもらえなかったりしていた。最初から持っている物が全然違っているところも、現実の世界と似ていると思った。この不平等な世界を変えるには、ただ単にお金を持っている国が、お金をあげればよいというものではないと思った。

親子で学ぶコミュニケーション研修

1学期に行われたコミュニケーション研修の第2弾が、11月に行われました。講師は、生徒たちにお馴染みのミッキー先生こと戸村充男先生です。前回の学習を振り返りながら「聴く力・質問の力・伝える力」を身につけて実践するための具体的なコミュニケーションの方法を学びました。

また、11月20日(土)には、1期生から継続して実施してきたこの研修を、保護者の皆さまにも体験していただきたく「親力アップ：コミュニケーションセミナー」を開催いたしました。当日は100名以上の保護者の方にご参加いただきました。これからも学校と家庭が協力し、子どもたちの豊かな成長を見守っていききたいと思いま



す。

【保護者の感想より】

○同じ内容を親子でそれぞれ学ぶ機会はありませんのでよかったです。今現在から将来にまで、とても大事な話なので、大変ありがたい時間でした。

○「聴くこと」は「待つこと」であるという先生の言葉を思い出し、子どもの話をじっくり、ゆったり聴きたいです。

○「プロセスをほめる」「感謝する」「一緒に喜ぶ」ことを大切にすると、やる気や勇気が出るというのに納得しました。これから子どもたちに前向きな言葉をたくさんかけていきたいと思えます。

○相手は意見を求めているのではなく、聴いてほしいだけかも知れないので、「共感する」を意識して会話をするようにしたいです。

【姫のひとりごと】

こうして振り返ってみると、11月のEGGは、さまざまな体験や学習ができ、いつもにも増して内容が濃かったように思います。EGGゼミも後半に入り、外部の方に取材をしたり、現地に赴いて調査をする班も出てきます。学校にとどまらず、学びの機会を増やし、力をつけていってください。